

歴史・文化資源

		No.	①
<b>施設名</b>	志方八幡神社 しかたはちまんじんじゃ		
<b>所在地</b>	加古川市志方町志方町 301-2		
<b>概要</b>	<p>天永 2(1111)年、宮谷に創祀され、明応元(1492)年、現社地に奉還して八幡神を勧請しました。古来、厄除・安産の神、交通安全の神として高く崇敬され、播磨三社八幡の一つです。志方荘 30ヶ村を鎮守したといわれ、祭神は、応仁天皇、神功皇后、玉依姫命(たまよりひめみこと)です。</p> <p>寛文 4(1664)年 8月に能楽堂が建立され、明治の初めまで、毎年秋の祭礼に奉納されるほど、能楽が盛んでした。</p> <p>毎年 10月の神幸式では、新しい型の舞楽、胡蝶の舞(正式名称「和光楽」)が奉納されています。</p>		

		No.	②
<b>施設名</b>	称徳寺 しょうとくじ		
<b>所在地</b>	加古川市志方町西牧 452		
<b>概要</b>	<p>本尊は阿弥陀如来です。藤ノ池の近くにあります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

		No.	③
施設名	大歳神社(才の木神社) おおとしじんじゃ(さいのきじんじゃ)		
所在地	加古川市志方町西牧		
概要	<p>祭や雨乞いのなど数多くの絵が奉納されており、普段から公開されています。「才の木さん」の愛称で知られています。</p> <p>境内の中には土俵があり、西牧の子ども相撲大会の会場となっています。また、内海敬十郎さんの表徳碑が建っています。</p>		
	 		

		No.	④
施設名	長楽寺 ちょうらくじ		
所在地	加古川市志方町永室 853-1		
概要	<p>和鋼 6(713)年、慈心上人によって開基し、はじめは真言秘密の道場でした。その後、天正 6(1578)年の兵火により伽藍全部を消失しましたが、本尊だけは難を逃れ、宝永 3(1706)年、専空念教法師の手によって再興し、不断念仏の道場になりました。</p> <p>本尊である木造地藏菩薩半跏像「延命子安地藏菩薩」は大正 7 年 4 月 8 日に国宝に指定され、昭和 25 年 8 月 29 日に重要文化財に指定されました。</p> <p>平清盛の娘である中宮建礼門院は難産であり、さまざまな神社仏閣に安産の祈願をされましたが、験がありませんでした。そこで、安産御利益で有名であった丹波老の地藏尊に祈願されたところ、無事に皇子が生まれたそうです。この皇子が第 81 代安徳天皇です。天皇は喜びのあまり、清盛に命じ、同体の地藏尊を 66 体刻み、日本 66 州に安置させました。そのうちの 1 体がこの「延命子安地藏菩薩」です。</p>		

No. ⑤

<b>施設名</b>	シホカキ井戸 しほかきいど
<b>所在地</b>	加古川市志方町横大路峠
<b>概要</b>	<p>この井戸はどんなに旱天が続いても水が枯れず、いくらかき濁しても濁ることとはなく、昔から霊泉と伝えられています。「シホカキ」とは「清める」「潔斎する」という意味です。</p> <p>この井戸の水は産湯、神仏に供える水、潔斎などに用いられました。横大路の学者「大内氏」が、産児の名付け親となって命名する時、この井戸の水で潔斎して命名したそうです。</p> <p>また、豊臣秀吉が志方地方攻略のおり、この井戸で潔斎したという伝説も残っています。</p> <p>この井戸は集落の人が大切に守ってきましたが、ある日突然出なくなりました。終戦後の南海地震が起きた日の翌日から出なくなったのです。地震によって水脈が変わったためだと思われています。</p>

No. ⑥

<b>施設名</b>	腹切り地蔵 はらきりじぞう
<b>所在地</b>	加古川市志方町山中
<b>概要</b>	<p>この石地蔵は竜山石に彫ったもので、胴体があたかも切腹したように割れています。</p> <p>腹切りの由来として天正 8(1580)年の三木城落城にまつわる話が伝えられています。それは、三木城にかかわる一人の武士がこの地で切腹し果てたというものです。村人がその後に、石の地蔵を建てて武士の菩提を弔ったが、不思議なことに、このお地蔵さんがいつの間にか腹部のあたりから2つに割れていたそうです。このお地蔵さんは、どんな願いでも1つだけかなえてくださるといわれています。</p>
	
	腹切り地蔵(中央)

<p><b>施設名</b></p>	<p>道標 どうひょう</p>
<p><b>所在地</b></p>	<p>加古川市志方町横大路</p>
<p><b>概要</b></p>	<p>坂を登りつめたところにお堂があり、その中に道標があります。お地蔵さんの台石に字が刻まれています。</p> <p>元々は、この場所ではなく違う場所で、向きも違って置かれていたと考えられています。</p> <p>この辺りは1本道で、おそらく、坂の登り口辺りに立っていたのをこの場所に移したのだと思われます。</p> <div data-bbox="557 763 983 1084" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1082 790 1228 1055" data-label="Text"> <p>左 右 石の宝殿 法花山</p> </div> <p style="text-align: center;">道標・お地蔵さん</p>